

第2A(小)分科会 子どもの発達に関する課題

提案主題 支援を要する子どもへの組織的な対応と教頭の役割について
サブテーマ ～校内体制づくりと家庭、関係機関との連携のためどう取り組んでいったか～
協議の柱 支援を要する子どもへの組織的な対応と関係機関との連携、そこでの教頭の役割は
どうあればよいか。

提言者 玖珠町立北山田小学校 宮崎利浩

1 質 疑

- (1) Q 特別支援教育支援員の入り方について？
A 3名の支援員がローテーションで入り、子どもたちにも効果がある。勤務時間が16時50分までなので、放課後のケース会議も支援員が入ることができる。
- (2) Q 個別の指導計画は通常学級の児童の分も作成しているのか？
A 通常学級用には北山田バージョン用の個別の指導計画に作成し、ファイルにして中学校へつなげている。支援員を申請するもとの資料にもなっている。

2 協 議

- (1) 各種会議を設定し、月行事に位置づけるなど計画的に行うことで情報交換も行われ、全職員で共通理解がされていく。またSCやSSWの来校日にケース会議を開くと効果的。
- (2) SCやSSW、専門機関を活用することにより、医療機関とも連携がとりやすくなる。そのことで支援を要する子どもの対応が更に開け、効果的である。
- (3) 特別支援教育コーディネーター、教育相談コーディネーターと教頭の連携が大切。コーディネーターを活用・育成していくことが、組織的な学校運営につながっていく。
- (4) 特別支援教育支援員等の適切で効果的な配置が必要。支援員の聞き役になるのも教頭にとって大切な役割。また職員室で話しやすい環境を作るのも教頭の役割。

3 指導助言

- (1) 人材育成をすることが管理職の仕事。仕事を職員に任せてさせることが人材育成になる。コーチングをしながらその職員のよさを引き出していくことで、自律した職員になる。
- (2) レポートについて
 - ①各種会議が計画的に行われていることで、情報交換がよくされている。
 - ②関係機関との連携は教頭が行うが、慣れてきたら担当に任せることが「チーム学校」としてのあり方につながっていく。
 - ③小中学校が1つずつで連携がしやすい条件であるので、個別の指導計画など北山田バージョンを活用して連携を深めていくとよい。
 - ④子どもの様子がこんな姿に変わったという内容があるとよかった。
- (3) 支援を要する子どもの対応は、子どもの居場所でなく、子どもと出会う人である。